

---

# 習作 猫と雪

汐崎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

習作 猫と雪

### 【Nコード】

N9686J

### 【作者名】

汐崎

### 【あらすじ】

習作です。このサイトではライトノベルの練習に、アルセリア幻想記というものを創っておりますが。驚く事に一日のトータルPVが1万を軽く超えていってしまいました。

練習も兼ねてお礼に、家のニャンコを題材にした超短編です。

超短編。難しくて大好きです。

## （前書き）

創作時間は、ニャンコを見ていた時間含めて、30分程でしたでしょうか。

そのぐらいとなります。

白く長い毛、良く手入れされた毛並み。

暖かく、まるで柔らかな春の日差しの様に、私を包む自慢の毛並み。白く冷たい雪。良く手入れされた庭。

冷たく、今腰を落としている縁側。体に伝わる寒さ。冬。

白い雪。私も白い。でも違う、私は暖かい。

でも、何故君は冷たいのだろう。傾げた首の毛並みから入る冷たい風。

肌を泡立たせて身震いする。風から逃げる様に丸くなる。君の様に縁側で丸くなる。

空からの光が君を照らし、君が私を照らす。少し暖かい。でも君は、冷たい。首を傾げる。

私は柔らかい、君も柔らかかった。

私はするりと地面に降り、確かめる。君はどうして硬い。首を傾げる。

私が歩くと、君が居なくなる。後ろを向くと居なくなる。君は私の前にしか居ない。

君の居なくなつた場所に緑色。空からの光が君の体を流れる様に光らせた。私は首を傾げる。

私はまた、後ろを向く。また後ろに緑の君が居る。繰り返し繰り返し、緑の君が増えていく。

白の君はどこに、私は首を空に向ける。またあの暖かい光が沢山回ったら、白い君に会えるかな。

私は頷く。またきつと白い君と会えると、頷く。

そして、こんにちわ緑の君。また、会えたね。

（後書き）

去り行く冬と訪れる春。  
難しいですね。（笑）

猫の動作に重ねあわしてみましたが…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9686j/>

---

習作 猫と雪

2010年10月28日03時26分発行